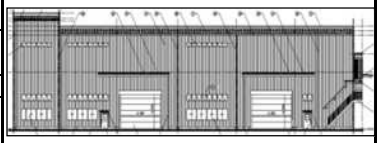
CASBEE®-あいち　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き　I使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要

建物名称	田原）第2車体工場C1受入上屋拡張	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県田原市緑が浜三号1番　他91筆	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	0　人
気候区分	6地域	年間使用時間	0　時間/年
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年9月　　予定	評価の実施日	2026年7月6日
敷地面積	1,331 ㎡	作成者	天野　賢治
建築面積	1,163 ㎡	確認日	2026年7月6日
延床面積	2,285 ㎡	確認者	天野　賢治

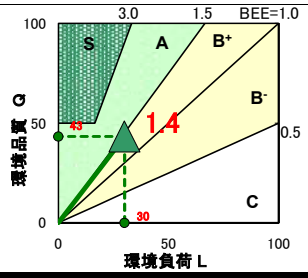
1-2 外観



2-1 建築物の環境効率（BEEランク&チャート）

BEE =1.4

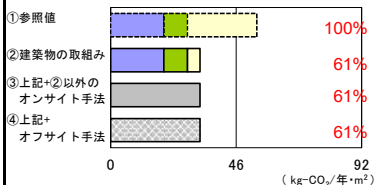
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

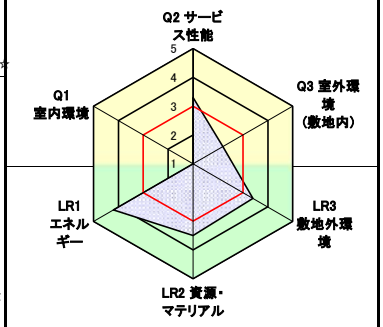
30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

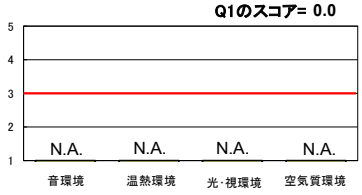
2-3 大項目の評価（レーダーチャート）



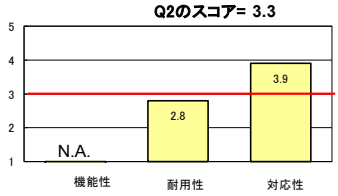
2-4 中項目の評価（バーチャート）

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.7

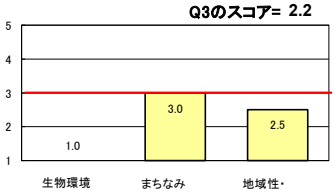
Q1 室内環境　Q1のスコア= 0.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.3

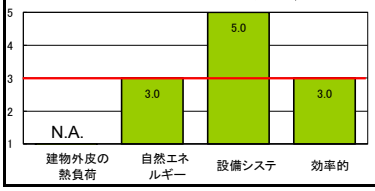


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.2

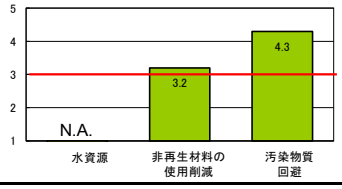


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.7

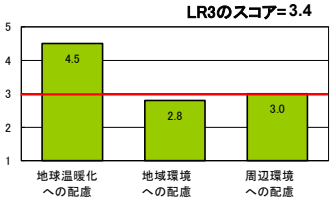
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.2



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.5



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.4



3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.5

③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数（外構緑化面積/外構面積）

0.0 %

建物緑化指数（建物緑化面積/建築面積）

0.0 %

②資源の有効活用

3.2

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。
①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2　耐用性・信頼性、Q-2 3　対応性・更新性
LR-2 2　非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数＝（中高木の樹冠の水平投影面積＋低木・地被等の植栽面積）／（敷地面積から建物面積（建築面積及び附属物面積）を除いた）×100

建物緑化指数＝（屋上緑化面積＋壁面緑化面積）／（建築によって占有された部分の水平投影面積（法定面積））×100

CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き
田原）第2車体工場C1受入上屋拡張

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き
欄に数値またはコメントを記入　■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート　実施設計段階

配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質									2.7
Q1 室内環境					-			-	-
1 音環境			-	-	-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-		-		
1.2 遮音			-	-	-		-		
1 開口部遮音性能			-	-	-		-		
2 界壁遮音性能			-	-	-		3.0		
3 界床遮音性能（軽量衝撃源）			-	-	-		3.0		
4 界床遮音性能（重量衝撃源）			-	-	-		3.0		
1.3 吸音			-	-	-		3.0		
2 温熱環境			-	-	-	-	-	-	-
2.1 室温制御			-	-	-	-	-	-	
1 室温			3.0	-	-		3.0		
2 外皮性能			3.0	-	-		3.0		
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-		-		
2.2 湿度制御			3.0	-	-		3.0		
2.3 空調方式			3.0	-	-		3.0		
3 光・視環境			-	-	-	-	-	-	-
3.1 昼光利用			-	-	-	-	-	-	
1 昼光率			3.0	-	-		3.0		
2 方位別開口			-	-	-		-		
3 昼光利用設備			3.0	-	-		3.0		
3.2 グレア対策			-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御			5.0	-	-		3.0		
3.3 照度			3.0	-	-		3.0		
3.4 照明制御			3.0	-	-		3.0		
4 空気質環境			-	-	-	-	-	-	-
4.1 発生源対策			-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質			3.0	-	-		3.0		
4.2 換気			-	-	-	-	-	-	
1 換気量			3.0	-	-		3.0		
2 自然換気性能			3.0	-	-		3.0		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-		3.0		
4.3 運用管理			-	-	-	-	-	-	
1 CO_2の監視			3.0	-	-		-		
2 喫煙の制御			3.0	-	-		-		
Q2 サービス性能				—	0.43		-	-	3.3
1 機能性			-	-	-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ			-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性			3.0	-	-		3.0		
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-		3.0		
3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-		-		
1.2 心理性・快適性			-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観　（天井高）			3.0	-	-		3.0		
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-		-		
3 内装計画			3.0	-	-		-		
1.3 維持管理			-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-		-		
2 維持管理用機能の確保			-	-	-		-		
2 耐用性・信頼性			0.5	2.8	0.52	-	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.4	3.0	0.48	-	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	2.4	0.33	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.23		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		-	2.0	0.23		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		主要内装仕上げは更新間隔の長い部材を採用	-	5.0	0.09		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			-	-	0.15		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23		-		
2.4 信頼性			0.1	3.0	0.19	-	-	-	
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.33		-		
2 給排水・衛生設備			3.0	-	-		-		
3 電気設備	②		3.0	3.0	0.33		-		
4 機械・配管支持方法			3.0	3.0	0.33		-		
5 通信・情報設備			3.0	-	-		-		

3 対応性・更新性			0.4	3.9	0.48	-	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり		3,900m以上の階高を確保	-	5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率=0.15	3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		床：4,500N/㎡以上（一部レベル3を考慮し、レベル4とする。）	3.0	4.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	-	-		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	-	-		-	-	
3 電気配線の更新性		天井仕上げなし	3.0	5.0	0.20		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	-	-		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.40		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.40		-	-	
Q3 室外環境（敷地内）				–	0.57		-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-			-	3.7
LR1 エネルギー				–	0.40		-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.13		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.18	3.0	5.0	0.63		-	-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-		-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル				–	0.30		-	-	3.5
1 水資源保護			-	-	-	-	-	-	-
1.1 節水			3.0	-	-		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			-	-	-	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	-	-		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	-	-		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.7	3.2	0.74	-	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	ー	-	3.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	ビニル系床材（床仕上材）	3.0	3.0	0.21		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体＋LGS＋ボード（断熱材はGW敷込み）	3.0	4.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	4.3	0.26	-	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	5.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-		-	-	
2 発泡剤（断熱材等）		グラスウールを採用（発泡剤の使用なし）	-	5.0	1.00		-	-	
3 冷媒			3.0	-	-		-	-	
LR3 敷地外環境				–	0.30		-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率61%	-	4.5	0.33		-	-	4.5
2 地域環境への配慮			0.3	2.8	0.33	-	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の設置無し	-	5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.3	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.33		-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	-	-		-	-	
3 交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.33		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.33		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	-	-		-	-	
2 振動	独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭			-	3.0	1.00		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制			-	1.0	-		-		
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70		-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策			-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

(田原)第2車体工場C1受入上屋拡張

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版＋あいち版手引き

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.22	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア＝各配慮項目の評価点

②資源の有効活用

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{重みの総和}}$$

④地域材の活用

重点項目スコア＝評価ポイントの合計＋1

■ 環境設計の配慮事項

■建物名称 田原）第2車体工場C1受入上屋拡張

計画上の配慮事項	
総合	法規制と建築主が求める諸条件をクリアして計画をすすめた。 環境負荷低減に配慮し、LR1の省エネルギー性能向上を重視した。 また、Q分野についても可能な限り配慮を図った。
Q1 室内環境	評価対象外。
Q2 サービス性能	補修必要間隔の長い内装材の採用、空間及び荷重にゆとりをもたせ、更新や用途変更にも対応できるようにした。
Q3 室外環境（敷地内）	建物周囲に視線を遮るものを設置しないようにした。
LR1 エネルギー	BPI=評価対象外 BEI=0.18
LR2 資源・マテリアル	分別容易な部材構成、強度の高い構造材とすることで材料使用量を低減。 断熱材は、鉱物繊維系のグラスウールを採用。
LR3 敷地外環境	広大な敷地のなかに仮想閉空間を設定しているが、可能な限り敷地外環境に悪影響を及ぼさない配慮をした。
その他	